



京都 YWCA

5 2018

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

ユース育成を担う草の根プログラム——日韓ユース・カンファレンス2017

「私たちの生きづらさを考える～社会的承認と貧困～」

2月23日～26日大阪で18回目となる「日韓ユース・カンファレンス」が行われ、日本から15名、韓国から16名のユース（30歳以下）、スタッフ10名が参加しました。寝食を共にし、両国共通の課題に取り組む草の根の対話・交流プログラムであり、平和を創造するユースのリーダーシップ育成を目指しています。今回は「私たちの生きづらさを考える～社会的承認と貧困」というテーマで、在日コリアン、女性・子どもの貧困について、フィールドワークとグループワークに取り組み、課題解決に向けてのアクションプランを作りました。京都YWCAの自立援助ホーム「カルーナ」はカンファレンスに協力し、社会的養護の下にある女子児童（15～20歳）の生きづらさを学ぶ場を提供しました。日韓のユースが今後どのようにアクションプランを実現させていくのかを見守りたいと思います。以下実行委員としてカンファレンスに関わった2人の神戸YWCAユース会員の声を記します。

一からプログラムを作ることの難しさ

「実行委員」になるのは初めての挑戦で、終始「これでいいのか？」と思いながら、必死で約1年間突っ走ってきたように思います。フィールドワークはどこに行くか、何についてどれくらいディスカッションをするかなど、プログラムを一から考えました。限られた時間で、担当になったものを自分が考え、次の実行委員会に提出という形で進めました。どの程度まで考え提出するかを悩み、学業と両立しながらプログラムを詰めていくのはしんどいと感じることもありました。事前学習会で参加者の皆さんが本番までのタスクを分散させてくれたので、少し楽になりました。そのことが本番へのビジョンや空気感を見せてくれたと思います。

本番ではタイムロスも、言語の壁が意見に齟齬をきたすこともありました。しかし、それまでに築いた信頼・協力関係や、参加者の自主性に助けられどうにか乗り切ることができました。自分の働きに満足しているわけではありませんが、今回は私にとって一つの基準となる経験になりました。本当にありがとうございました。（村野真椰）



カンファレンスを終えて

違いを受けとめ合いながら対話を重ねることの大切さ

本企画を通じて最も考えたことは、あらゆる背景をもった人が集まり、交流・対話を通して社会課題に取り組むとはどういうことだろうか、という



試行錯誤しながらの対話で課題解決へ

ことです。社会課題はひとりの生きづらさを解消しても無くなりません。むしろ誰かにとって新たな問題が生じることもあるかもしれません。多様な人が違いを受けとめ合いながら、それぞれの観点を持ち寄り、対話をしていくことが社会課題の解決方法を生み出し、人々の幸せにつながっていくのではないかと考えています。

しかし、本企画を通じて対話の場をつくることの困難さを感じました。「あらゆる背景をもった人」と言うのは簡単ですが、その背景を想像し行動することは難しいからです。気づかない間に誰かを傷つけたり、誰かを抑圧し排除しているかもしれません。私たちはもっと社会にはどんな人がいるのかを想像し、どんな社会構造が生きづらさをつくり出しているのかを考え、社会課題に対し当事者意識を高めていく必要があるのではないのでしょうか。私たちのアクションプランを、今後多くの方にパワーをいただきながら私たち自身で気持ちを高め合い実行していきたいです。（福田 百）

ごあいさつ

新年度に寄せて

足元を照らし、道の先に灯を見つける

ミッション推進活動運営委員会 2018年度 会長 別所加恵



イースターの訪れとともに、2018年度が始まりました。会員活動の組織改編による試行錯誤の1年を経て、京都YWCAは95周年を迎えています。社会の急激な変化に伴い「働き方改革」が話題になっていますが、私たちが公益財団法人であり、地域YWCAという組織としての、また、組織を創っている会員としての「働き方」を考えていく必要があります。

改革、変革といえば、それだけで前向きで明るいイメージを持たれることが多いでしょう。変化は物事に新しいモチベーションを与えるものです。しかし、何かを改め変えるためには、対象となるものをよく知らねばなりません。今に至る経緯・現状の把握から、課題の抽出と解決のためのアイデアが生まれるのです。

私たちは、95年という月日をかけて京都YWCAに関わる様々な人たちによって拓かれてきた道の上に立っています。2017年はその足元を見つめるための会員活動の組織改編がスタートした年でした。その歩みの中で、受け継がれてきたもの、大切にしてきたことを「続ける」ということの尊さと共に、それを慈しみ、より良き姿に変えていくために必要なものを探していくことが、京都YWCAの「改革」だと思えます。

5月には日本YWCAのフェスタが京都で開かれます。足元を見つめる目をあげると、日本各地に、そして、世界に広がるYWCAの仲間がいます。京都YWCAに心を寄せ応援してくださる方々と、日々活動を続けてくださっている方々に感謝しつつ、共に未来を描いていきたいと願っています。



✧ 京都YWCA 私たちが目指すもの (2018年度) ✧

女性や子どもの人権が守られる社会
多様性を尊重し異なる文化や背景をもつ人々と共に生きる社会
あらゆる暴力を否定する社会
「核」のない持続可能な地球環境



「伝える」・「つながる」チャリティコンサート キッサコ～あなたへの伝言

京都YWCAでは、ファンドレイジングの一環として毎年、様々なチャリティイベントを行っています。3月31日、フォークボーカルデュオ「キッサコ」を招いて同志社大学寒梅館でコンサートを開催しました。キッサコは、僧侶でもある薬師寺寛那さんと京都出身の山元サトシさんの二人をメンバーとするユニークなグループで、全国で活躍されています。

今回のコンサートの広報にあたっては、チラシの配布だけでなくFacebookなどのSNSやラジオでの告知・新聞掲載など、各媒体での発信に力を入れました。

お知らせにあたり「チャリティってどういうこと?」「なぜキッサコさんを?」とよく尋ねられました。京都YWCAは、自立援助ホームの運営や、滞日外国籍の方や子育ての支援など様々な事業や活動を行っています。私たちが行っていることをより多くの方に知っていただく機会の一つとして今回のようなコンサートを行い、収益を活動のために使わせていただいています。また、キッサコの歌は多くの方を応援する応援歌のようであり、「あなたはあなたのままでよい」、そんなメッセージが伝わってくる温かな励ましの歌でもあります。様々な背景を持つ方たちが集まって、心



癒される、励まされるひと時を過ごしていただければ…。そんな思いで約1年かけてじっくり準備をしてきました。

当日は、230名を超える方々の来場があり、キッサコの歌に聴き入りました。普遍的な「伝言(メッセージ)」を込めた歌詞に、それぞれ自分や大切な人を重ねて思いをめぐらせた方も多かったようです。

また、会場では京都YWCAのオリジナルグッズや、手作りのケーキ、クッキー、マーマレード等を販売し、お客さまとの会話も弾み、終始和やかな雰囲気でした。

今回のコンサート実施の過程で新たな出会いがあり、励みになりました。ご来場およびご支援いただいた皆さまに心から感謝いたします。

(御前麻里)



「うららかふえ」おつかれさま会 お米生産者の大谷善一さんをお迎えして

京都YWCAのふれあいの居場所食堂「うららかふえ」のお米は滋賀県南部に位置する信楽の米生産者で木こりでもある大谷善一さんが作ってくださっています。大谷さんのお米は従来の4分の1の農薬使用で環境と人の体にやさしいお米です。そのお米は、滋賀県が推進する「環境こだわり米」であり、このような厳しい認証基準をクリアしたお米は県内の米の20パーセントを占めているそうです。

米作りのお話の中で「田んぼ」の素晴らしさを知りました。例えば田んぼに張る水の量についてですが、1シーズン（120日）に2400トンという膨大な量を必要とするそうです。でも稲に吸収される水はその内のわずか0.7%で、50%強は地下水となるので、田んぼは「水の生産地」であり、またメダカ、ヤゴ、トンボ、ドジョウが育つので「魚のゆりかご」とも呼ばれているそうです。そして暑い夏には「天然のクーラー」になるとも！



大谷さんを囲んでご飯をいただきながら歓談

一方で日本の米の消費量が毎年8万トンも減っていると聞き、米農家さんの生活

や日本の食糧自給率のさらなる低下への危惧を感じました。

会の昼食では、大谷さんのアドバイスのもと炊いたお米（いつもカフェで頂くお米と同じなの！？と思うくらいつやつやでふっくらしていました）と仕出し屋さんで注文した色とりどりのおかずセットを頂き、楽しい歓談のひとときを持ちました。

お米のとき方、炊き方のアドバイスのご紹介です

1. たっぷりの水でやさしく洗う
（ごしごしギュギュはNG）
2. 少し水に濁りがある程度で終える
3. 浸水時間は夏は15分～20分、冬は30分以上
4. 浸水の水はなるべく冷たいもので
5. （カフェの場合）10合炊きの釜なら6合以下、20合炊きなら14合以下程度を炊く

古米をおいしく炊く方法も教えていただきました。お酒、はちみつ、もち米、塩こうじなどを一緒に入れて炊くそうです。とくにお勧めは「塩こうじ」だそうで、それで握ったおにぎりは最高にうまい！とのこと。みなさんもお試しあれ～。

（木戸さやか）

イースター集会

イースターはキリスト教でクリスマスに次いで重要な祭日で冬から春へと変わる季節を祝う日である。

今回は、京都YWCAのグループ・ブクラが支援を続けるパレスチナへの訪問報告を受けた。

今なお不安定な情勢であるパレスチナを訪問された張善花さんより現状が報告された。

初めに「平和を実現することは幸いである」と話され平和の担い手・ピースメーカーとして自分のいる場で何ができるかを考えてくださいと提言された。

また今回、宗教的な聖地であるイスラエルと現実のイスラエル国家を結びつけないよう気をつけていたと話された。

オリーブ収穫や難民キャンプ、現地YWCA訪問の報告がされ、パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAが共同で行っている「オリーブの木キャンペーン」が、イスラエルによるパレスチナ干渉の抑止力になっていることがよく理解できた。

困難な中でもたくましく生活しているパレスチナの人々の様子や難民キャンプの少年の笑顔に励まされ力づけられた集いであった。

（青野美佐江）



平和メッセージを囲んで

多様な文化を尊重し合う

「多文化共育」出張授業

3月16日、私たち外国人6名とYWCAスタッフ5名とで、木津第二中学校1年生の授業に行きました。多文化共育プログラム出張授業に参加できてよかったと思っています。楽しかったです。日本の学生の前で自分の国を紹介するのはめったにない機会ですから、とても緊張しましたが、良い経験になりました。授業のためにパワーポイントを作っている時も台湾と日本の文化の相違点や類似点を把握できて、自分にとっても勉強になりました。

そして、木津第二中学校の生徒達はみんな元気いっぱい、真面目に話を聞いてくれました。その上、台湾に関する質問もたくさん頂いて、本当にありがたかったです。授業を通して台湾のことに少しでも興味を持っていただければ嬉しいです。京都YWCAの「多文化共育プログラム」は今の社会の課題に向き合うために重要で、このような面白いプログラムがあるのはすごく良いと思います。年齢に関わらず、多様な文化を尊重し合うことが大切だと改めて思いました。出張授業は留学期間の良い思い出になりました。

（徐華汝 ジョ・シンルー）



1年生全員で「ムカデの行列」ゲームをしました

今後のプログラム

◎～信楽へのもりだくさんツアー！

田んぼで畦づくり体験と絵本作家の読み語り～

- 日 時：2018年5月13日(日)
- 集 合：8:30～解散17:30
- 場 所：滋賀県甲賀市信楽町
- 参加費：小学生2,500円、おとな3,500円、親・子5,000円、
その他兄弟割引あります！
- 申 込：要 5月7日(月)まで

◎あじさいバザール～共に生きる世界を～

- 日 時：2018年6月2日(土) 10:00～15:00
- 場 所：京都YWCA
- 入場料：100円
たくさんの皆さまのご来場をお待ちしています。

◎京都YWCA 公開講座 「貧困世代」の未来をどう創
るか～若者の貧困を考える～

- 日 時：2018年6月9日(土) 15:00～18:00
- 場 所：京都YWCA
- 講 師：藤田孝典さん(NPOほっとプラス代表理事、
聖学院大学人間福祉学部客員准教授)
- 参加費：一般1,000円、学生500円
- 申 込：要
- 共 催：関西セミナーハウス活動センター



おすすめです！

映画
「LION /
ライオン 25年目のただいま」

監 督：ガース・デイビス
製作国：オーストラリア
製作年：2015年



インドの貧しい家に育った5歳の少年サルーは、仕事に行く途中に兄とはぐれ誤って回送列車に乗ってしまい1600km離れた土地に来てしまいます。言葉も通じず自分の育った町の名も分からず、孤児となってしまったサルーに様々な危険が迫りますが、逃げ、隠れ、辛くも難から逃れていきます。そして約二十年後、サルーはオーストラリアの夫婦の養子となり幸せに暮らしていますが、あることをきっかけにインドでの暮らしが蘇り苦悩と葛藤の日々が始まります…

サルーの物語としても十分心惹かれますが、それ以外にインドの貧困家庭の生活、孤児が晒される危険や邪険さ、やはり孤児だった義理の弟の抱える傷、養父母の悲しみと苦悩などが描かれ、さらに喜びの中にもどこか悲しみが漂うエンディング、お薦めです。実話をもとにした映画だそうです。

(広報部)

ご寄付ありがとうございました。

2018年2月1日から3月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

吉川文一、神岡茂子、丹波卯子、安田和美、日本キリスト教団平安教会

各指定寄付

*会館改修、メンテナンス募金
山本千鶴、梶川雅子

*親・子育て支援活動委員会

親子ライブラリー有志、新洞学区民生委員児童委員協議会

*多文化共生委員会

阿久澤麻理子、安藤いづみ、小寺敬子、神門佐千子、張善花、匿名1名

*平和・環境委員会

松田千治、今井貴美江、長谷邦彦

*うららかふえ
勝山久仁子

*自立援助ホーム「カルーナ」(教育奨励金)

ピーティ デイビッド、近藤八津子、日本キリスト教団洛西教会、匿名1名

*自立援助ホーム「カルーナ」後援会費・寄附

桑村祐子、若尾典子、松田千治、神門佐千子、平城智恵子、平尾剛之、山上義人、河村ひろみ、柳原亜木、木村和子、近藤八津子、小杉總子、小林裕彦、丹所紀代子、相澤雅文、上村京子、小寺敬子、杉本康代、山崎美和子、日本聖公会聖アグネス教会、平安女学院中学校・高等学校、日本キリスト教団京都丸太町教会、匿名1名

*賛助費

森雄二郎、太田昭子、匿名1名



3・4月/理事会報告

- 2017年度末決算処理の確認と2018年度予算を協議・決定した。
- 3/24：新たにあじさい寮に住む留学生向けの生活オリエンテーション実施後、会員との交流会を開催。
- 4/14：カルーナ基金拡充に向けて、後援会員を主な対象にした「3周年報告および懇親会」を開催。
- 貸室利用者向けにメニュー表を作成し、うららかふえの利用案内を開始。
- うららかふえ空間の有効活用を目的として貸室利用条件を決定した。
- ボランティア受け入れ体制と定期的オリエンテーション実施計画について協議。
- 4/28：サラーム春の交流会として東山将軍塚の青龍殿見学と昼食会実施。

手作りのぱんやさん

キートス

北欧 フィンランドのパンをご家庭に・・・

京都市中京区壬生坊城町33 グラディール朱雀002

TEL・FAX：075-842-0585

URL：http://www.5a.biglobe.ne.jp/~kltos/

KYOTO YWCA No.544

2018年5月号(5月1日発行)

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都YWCA

〒602-8019 京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都YWCA

定 価：奇数月1日発行(1部50円)